

2025 世界の核物質データ

(2023 年末)

2025 年 6 月 4 日

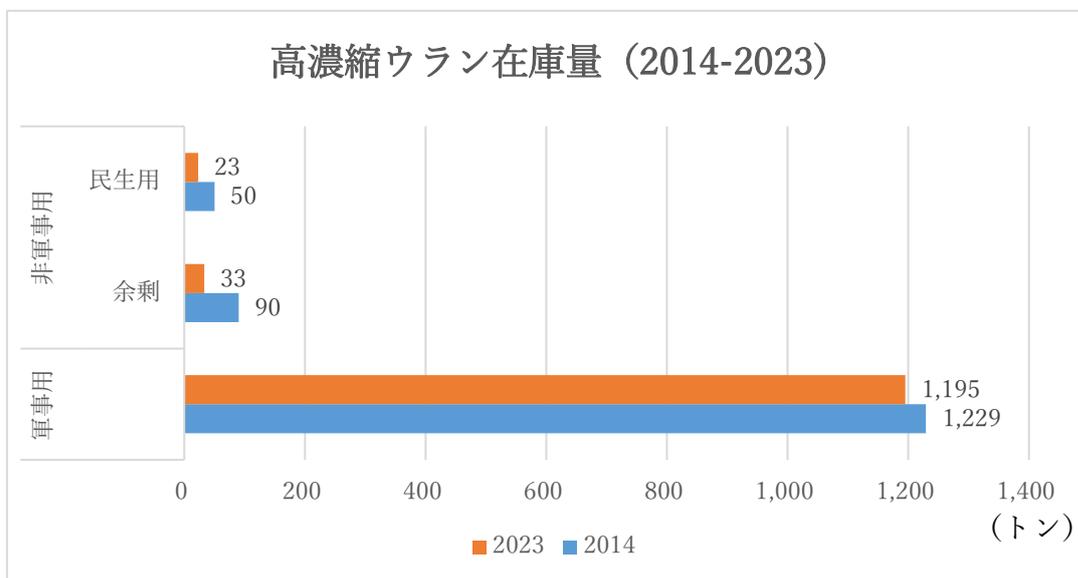
[概要]

今年も昨年と同様、高濃縮ウラン（HEU）の総量は減少し、分離プルトニウムの総量が増加したために、全体として増加傾向が続いています。HEU の総在庫量は 1,251 トン、19,550 発分（昨年より 4 トン、約 60 発分減少）となりました。しかし、分離プルトニウムはこれまでと同様増加傾向が続き、特に民生用のプルトニウムが 4 トン増加したため、総在庫量は 564 トン、94,050 発分（昨年より 4 トン、約 780 発分増加）となりました。その結果、総量は 113,600 発分となり昨年（112,880 発分）より約 720 発分の増加となりました。

1. HEU は、総量 1,251 トン（19,550 発分）となり、昨年比 4 トン、60 発分の微減となりました。軍事用（1,195 トン）は昨年（1,195 トン）とほぼ変化がありませんでしたが、非軍事用（56 トン）が昨年（60 トン）より 4 トン減少しています。総量の減少傾向は過去継続しており、9 年前の 2014 年末と比較して 118 トン、内訳は軍事用（34 トン）、余剰（57 トン）、民生用（27 トン）とも順調に減少しています（図－1）。
2. プルトニウムは、増加傾向が止まらず、総量 564 トン（94,050 発分）となり、昨年比 4 トン、約 780 発分増加となりました。軍事用（151 トン）は総量では昨年（150 トン）から微増で、イスラエル、インド、パキスタンなどが微増しているのはやや注意です。非軍事用（414 トン）は引き続き増加傾向にあります。フランスが 91.9 トンから 96.3 トンへ 4.4 トン増加し、昨年（410 トン）に比べ約 4 トンの増加となりました。非核保有国では、日本（44.5 トン）が微減（昨年は 45.1 トン）したものの全保有量（46.1 トン）のほぼ 97%を占めています。2014 年末と比較すると、軍事用（151 トン）は昨年と同様、増（1 トン）ながらこれまでの減少傾向から逆転しています。特にインド（5.1 トン）、中国（1.1 トン）の増加が目立ちます。一方、余剰分¹の減少傾向（83 トンから 81 トン）とは逆に、民生用が 59 トンも増加しており（272 トンから 331 トン）、民生用プルトニウムの増加傾向を止めることが大きな課題と言えます。（図－2）

¹ 「余剰」（excess）とは、二度と兵器に転用しないことを表明して備蓄されているプルトニウムのこと。米・露が冷戦終了後、余剰プルトニウム 34 トンを処分することに合意したが、2000 年に合意は破棄されており、米のみが処分を進めている。

図一 1



図一 2

